

“有機水銀説は正しい”

カーランド博士 水俣病患者を診察

水俣病究明のため十六日水俣市にやってきたアメリカのメリーランド州国立衛生研究所疫学部長レオナルド・T・カーランド



患者を診察するカーランド博士(水俣市立病院で)

博士は十七日朝九時から九大医学部勝木教授、熊大富田村教授、同徳臣助教授らといっしょに市立病院を訪れ、水俣病専用病とうに入院中の水俣病患者を診察したのち、同病院医局で「熊大の有機水銀説は正しい」とつぎのように語った。

「リカでも深い関心をもっている。この悲惨な患者に対しては援助を惜しまないつもりだ。」

「アメリカでも水俣病が起らないとは断言できないわけで、世界中の学者がもっと関心を寄せねばならない問題だと思ふ。現在の治療

方法は理学療法、つまりマッサージ療法など一般的なものしかないが、医学的には最善のものだ。新日窒の浄化装置もみた。わたくしは専門家ではないが、同装置はできるだけの設備は施してあると思ふ。ただ有毒物質は取り除かれていないと思ふ。」

なおカーランド博士はこのあと車で出水市に行き、同日午後の上り特急「はやぶさ」で板付経由、帰国の途についた。

「こんどやってきた目的は一昨年九月熊大の招きで水俣にきて水俣湾内の泥土や乾葉した貝などを持ち返って調べていたので、その研究資料を熊大や市立病院に提供するためだ。熊大の有機水銀説についてはアメリカでは完ぺきな調査はなされていないが、熊大が発表した結果と同じ結論が出ている。しかしまだどういう形の水銀であるかはアメリカではわかっていない。世良博士の新説(イオウ化合物を含む有機水銀塩)については帰国後さっそく熊大と同じ実験を行なつてたしかめたい。原因不明の神経系統の病気についてはアメ